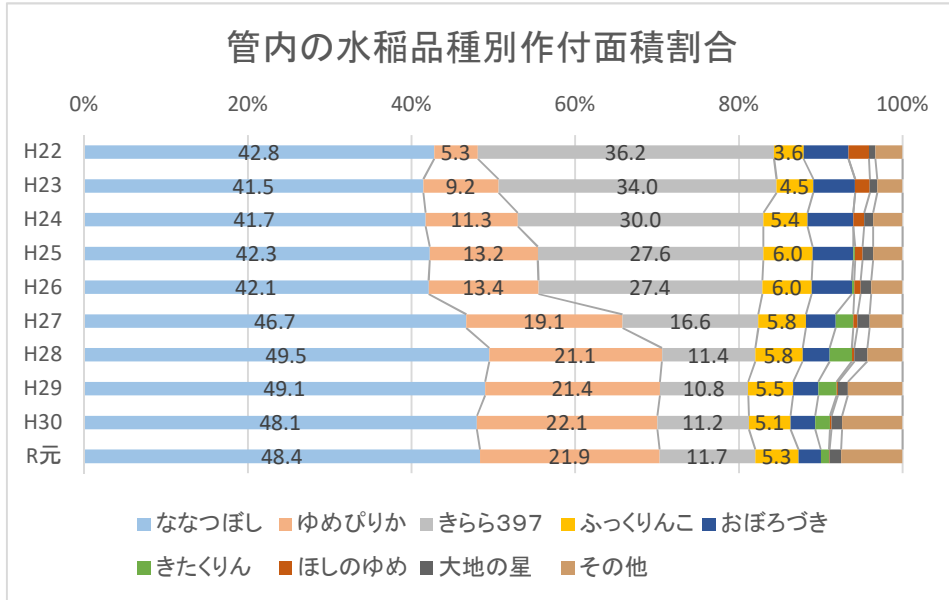


水稻の作付状況

管内の水稻品種別作付面積割合の推移

○「ななつぼし」が中心、「ゆめぴりか」が増加、「きらら397」が減少

平成22年からの年次別の推移では、ななつぼしが一貫して4割以上を占めています。ゆめぴりかは平成22年の5.3%から令和元年の21.9%に増加している一方で、きらら397は36.2%から11.7%に減少しています。また、ふっくりんこは近年は5%前後で推移し、おぼろづきは平成22年から減少傾向で、近年は3%前後となっています。



資料:北海道農政部調べ

※ 「その他」には、「そらゆき」、「えみまる」、「ゆきひかり」(主食用、特定需要)、「そらゆたか」、「吟風」(酒米)などが含まれる。

管内の水稲品種別作付面積割合の推移

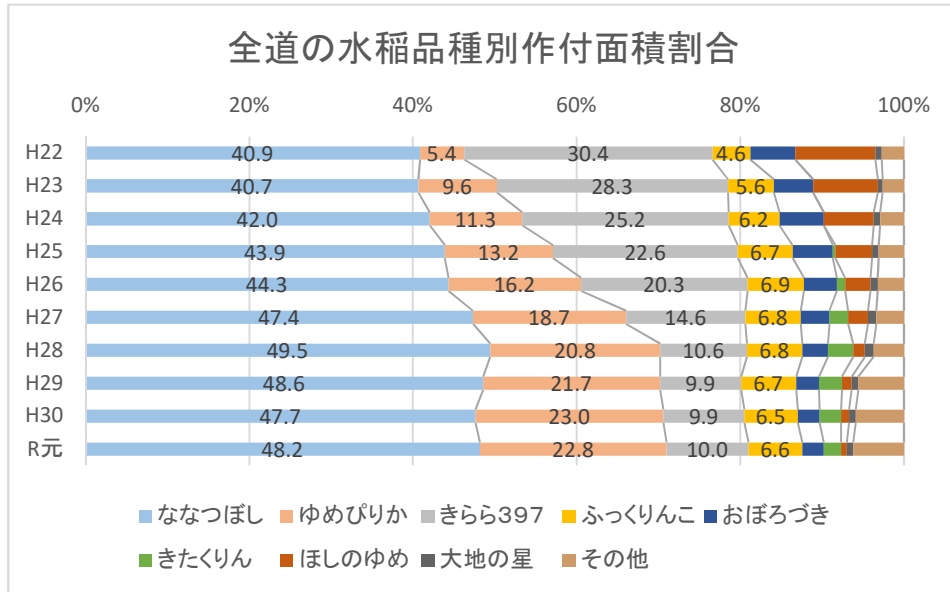
【参考】全道の傾向との比較

○管内の傾向と全道の傾向は類似

全道の品種別作付面積割合は、管内の品種別作付面積割合とほぼ同様の傾向を示し、令和元年においてはななつぼしが4割以上、ゆめぴりかが約1/4、きらら397が1割となっています。

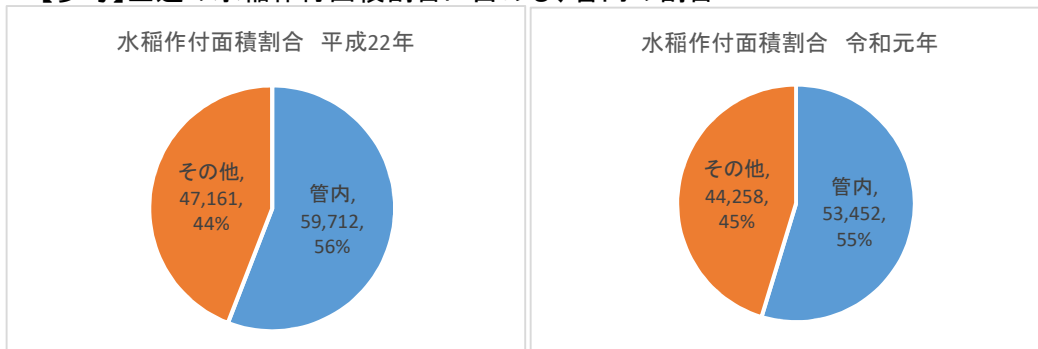
その理由としては、管内が全道の米の作付面積の半分以上を占めて(米の半分以上を生産して)おり、全道の傾向に直接影響を与えているためと考えられます。

ただし、ふっくりんこの割合が管内単独の場合に比べてやや高くなっています。



資料: 北海道農政部調べ

【参考】全道の水稲作付面積割合に占める、管内の割合

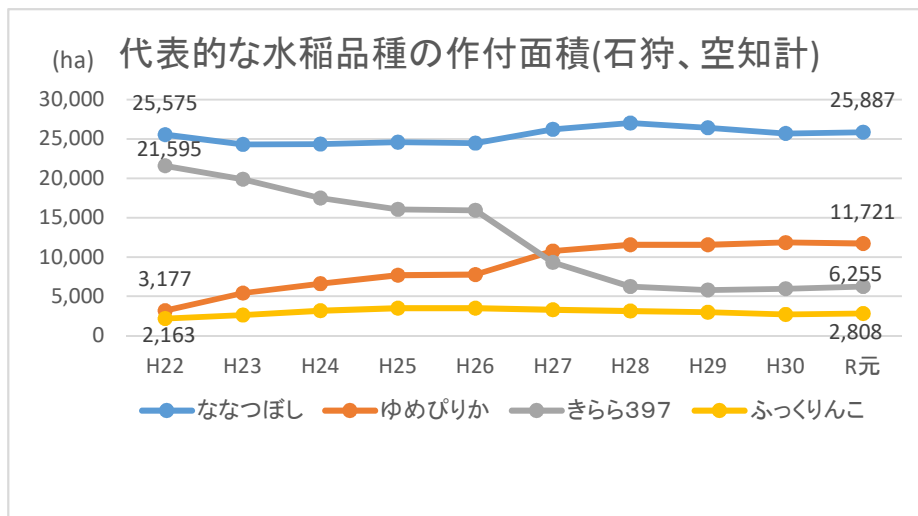
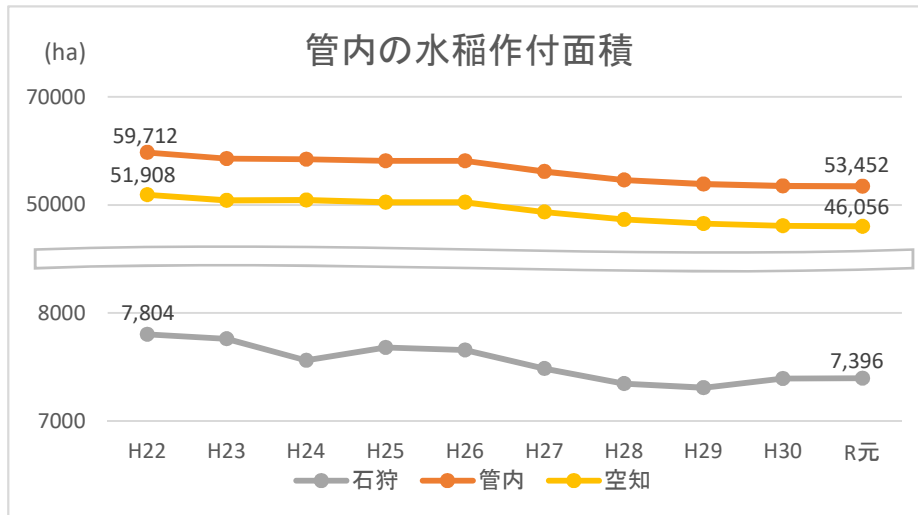


管内の水稲作付面積の推移

○全体面積は減、ななつぼしは横ばい、ゆめぴりかは増、きらら397は減

管内の水稲作付面積は平成22年から令和元年の間では減少傾向にあり平成22年に59,711haであったものが令和元年には53,452haとなっています。

品種別では、ななつぼしがほぼ横ばいである一方、ゆめぴりかが増加、きらら397が減少しています。平成22年および令和元年の作付面積はななつぼしが25,575ha→25,887ha、ゆめぴりかが3,177ha→11,721ha、きらら397が21,595ha→6,255haとなっています。



資料: 北海道農政部調べ

※「管内の水稲作付面積」は、うるち米のみの数値。もち米は含まれない。